

厚生労働大臣 加藤勝信君 不信任決議案 賛成討論

平成 30 年 5 月 25 日

国民民主党・無所属クラブ 大西 健介

私は、国民民主党・無所属クラブを代表して、ただいま議題となりました厚生労働大臣加藤勝信君不信任決議案に対して、賛成の立場から討論を行います。

まず、人の命がかかった法案を与党が数の力で十分な審議を尽くさないまま採決しようとしていることに、満身の怒りを込めて抗議いたします。

全国過労死を考える家族の会の寺西代表らが、官邸前に座り込みまでして、採決までに安倍総理に直接会って話を聞いて欲しいと面会を申し入れていましたが、これを拒み、最後まで家族に向き合おうとしなかった冷酷な態度には心から失望しました。

安倍総理は、この国会を「働き方改革国会」と位置づけて、「70年に及ぶ労働基準法の歴史的な大改革」と言ってきました。また、提出法案は8本もの法案を束ねたものであり、私たち野党も対案を提出して並行審議を行っていることを考えれば、十分な審議時間をとって丁寧な議論を行う必要があります。ところが、衆議院での対政府質疑は、わずか30時間程に過ぎず、うち4時間37分は、いわゆる「空まわし」であり、審議が尽くされたとは到底言えません。

まず、申し上げなければならないのは、そもそも、現在の安倍内閣の下では、働く人の命と健康がかかった重要な法案の議論を行う土台が崩れているということです。愛媛県が参議院に提出した文書によれば、昨年1月20日まで加計学園の獣医学部新設の計画を一切知らなかったというこれまでの総理の国会答弁が虚偽だった疑いがあります。国権の最高機関である国会に対して、主権者たる国民に対して、嘘をついたとすれば、そのような内閣の下では、どんなに重要な答弁も空疎であり、何を信じてよいのか分からなくなってしまいます。

ちなみに、愛媛県の文書から、当時、官房副長官だった加藤大臣が加計学園関係者と面会していたことが発覚しました。加藤大臣は、面会した事実を認める一方で、安倍総理への報告は否定しています。しかし、加藤大臣は、なぜ、これまでこの事実を黙っていたのでしょうか。文書には「官邸への働きかけを進めるため」面会をセットしたと書かれており、総理に報告しなかったというのは、にわかには信じられません。加計学園の地元岡山県選出の加藤大臣が獣医学部新設に何らかの影響を与えたのではないかと疑われてもしかたがないと思います。

以下、加藤勝信君が厚生労働大臣の任に能わない理由を申し上げます。第一に、加藤大臣は、家族の会や労働組合をはじめ多くの反対の声を無視して、過労死防止とは真逆の高度プロフェSSIONナル制度を抱き合わせで提案しました。委員会での審議を通して、高プロは、24時間連続勤務も合法となり、「定額働かせ放題」の過労死促進法であることが改めて明らかとなりました。過労死したNHK記者、佐戸美和さんのお母さんは「(高プロは労働時間の把握が困難なため) 労災申請さえもできなくなり、死人は増えても過労死は減る」と述べています。過労死した人が生き返ることはありません。高プロで過労死が増えたら、大臣は責任をとれるのでしょうか。

第二に、厚労省が、比べてはいけないデータを比較して、裁量労働制の方が一般の労働者より労働時間が短いという印象操作を行っていたことが明らかとなりました。政府は答弁撤回と謝罪に追い込まれ、当初、予定していた裁量労働制の拡大を法案から削除しました。また、加藤大臣が当初、「廃棄した」と答弁していた調査票が厚労省の地下倉庫から発見され、省ぐるみで隠蔽を図ろうとした疑いが持たれています。さらに、労働政策審議会に「議論の

出発点」として提出されていた「平成 25 年度労働時間等総合実態調査」のデータに 2 割もの不適切データがあることが判明し、削除されました。大臣は「傾向は変わらない。統計としての有効性はある」と説明していますが、料理の 2 割が腐っていて、その部分を取り除いたので、「さあ、召し上がれ」と言われて、食べることができるでしょうか。それどころか、与党が採決を提案した今朝の理事会で、厚労省が精査後のデータから更にミスが見つかったことを報告しました。与党の皆さんはこんな状態で採決を認めるのですか。仕切りなおして、労働時間の実態把握からやり直すべきです。労働時間データに関する厚労省の失態に次ぐ失態には開いた口がふさがらず、これだけとっても加藤大臣は十分に罷免に値すると思います。

第三に、私は予算委員会において、裁量労働制は一旦導入されると乱用を見抜くのが困難であることを指摘しましたが、安倍総理や加藤大臣は、野村不動産に対する特別指導に言及した上で、厳しく指導・監督を行っていくと答弁しました。ところが、野村不動産では、2005 年以來、600 名を超える営業職に違法に裁量労働制が適用されていたにもかかわらず、過労死の約 4 年前に是正勧告を行った際には違法適用を見抜けなかったことが分かっています。過労死がなければ乱用は分からなかったにもかかわらず、過労死の事実を知らながら、国会を欺く答弁をしていたとすれば、断じて許すことはできません。

第四に、加藤大臣の不誠実な答弁は、質疑を混乱させ、野党の貴重な質疑時間を奪っています。大臣の悪質な「論点ずらし」答弁は、ネット上で「ご飯論法」と呼ばれています。「ご飯論法」とは、「朝ごはんは食べたか」と聞かれて、朝食にパンを食べていても「ご飯はたべていません」と答えるようなごまかしのことです。働く人の命と健康に関わる質疑で不誠実な答弁を繰り返す大臣は即刻辞任すべきです。

第五に、加藤大臣の下では、東京労働局長の「何なら皆さんの会社に行って是正勧告してもいい」と報道機関に圧力をかける発言がありました。労働行政に対する信頼を著しく失墜させる行為は、部下の労働局長の更迭で済むものではなく、大臣も責任をとるべきです。

第六に、加藤大臣は、高齢者を中心に磁気ネックレス等を預託販売し、昨年末、事実上倒産した「ジャパンライフ」の会長と会食をしていました。ジャパンライフの宣伝チラシに掲載された総理側近の加藤大臣と会長の会食を見て信用した高齢者が大切な老後資金をだまし取られたとすれば、大臣は消費者被害の「広告塔」の役割をしたこととなります。

最後に、森友学園への国有地売却をめぐる決裁文書が改竄された問題で、佐川理財局長が「廃棄した」、「なかった」と国会で答弁してきた交渉記録が出てきました。その上、国会での答弁と辻褃を合わせるために文書の破棄を指示していました。官僚がリスクの高い所業に手を染めた背景には、官邸が省庁の幹部人事を一元管理する内閣人事局の存在があるとの指摘があります。2014年に創設された内閣人事局の初代局長に抜擢されたのが、他ならぬ加藤大臣です。加藤大臣と安倍総理は、義父の加藤六月氏と安倍晋太郎氏との関係以来の親戚のような深い付き合いと言われており、加藤大臣は総理の「お友達」の一人です。森友・加計問題では、総理や昭恵夫人の「お友達」によって行政が歪められていることが問題となっています。総理の「お友達」として内閣人事局長に抜擢され加藤大臣は、官邸の「全自動忖度機」のシステムを作り上げた戦犯の一人です。

加藤大臣の座右の銘は、「菜根譚」にある「一点素心^{いってんのそしん}」だそうです。人間として生きていく上では、少しでも純粋な心を持っていることが必要であるという意味だそうです。もし、加藤大臣に純粋な心が残っているならば、潔く身を引かれることを進言し、私の賛成討論をと致します。

(了)